

## はじめに……

すでに オスカーインターナショナルさんからの告知などでご存知かとも思いますが、この商品は過去に無い新しいプロセス/マテリアルで製品化された電源強化アイテムという事です。が、ハード面の情報も少なく未知な部分が多いため、先ずはその特徴(や使いこなし)を探ってみました。ご参考になれば幸いです。

マイنزカンパニー/坂本 範雄

**目的**…長所ばかりでなく短所も探る。特にこのでの大容量電源アイテムは、ダイナミックレンジが極端に悪化する現象を過去何度か経験したことがあり、この点も注視します。

## 1. F600 の結線

今回は車両実装で無く、ベンチテスト的に行ないました。電源はノイズ成分が比較的多い30A スwitchングタイプを使用。電源から F600 迄は8G のパワーケーブル/2.5m で配線。(椅子下装着を想定) アンプは ARC AUDIO 2150SE、スピーカーは morel Tempo6 3Way で試聴。

## 2. テスト・試聴方法

- ① F600 有・無 の試聴
- ② BA Labo との比較
- ③ BA labo との併用で試聴

## 3. 試聴結果

① F600 有・無 試聴——右図の様にアンプ手前で F600 を中継して配線。F600 のマイナス結線の ON/OFF を行いその音質を比較する。

**試聴感想**——すぐに分かるのは低域の変化。分厚く量感が増す。緩い低域の量感ではなくドッシリと構えた太い低域となる。次に中・高域は結構静寂感が増し、いわゆるS/Nの良い空間が得られる。音の粒立ちも明確になり全帯域に渡って十分にその効果が体感できる。心配したダイナミックレンジの悪化も無く、結果としてバランスの良い音質改善効果が確実に体験出来、自身を持ってお勧め出来るアイテムと言えます。

### ② BA labo BE-101 との比較試聴

静寂感、深いダイナミックレンジ、張り詰める緊張感など、発売から大分時間は経過しますがよく出来たキャパシター、電源アイテムと改めて見直したくなる。この独自の音楽再生空間は中々他では得られないのも事実か。但し、分厚い低域や量感は大容量の F600 が勝る。

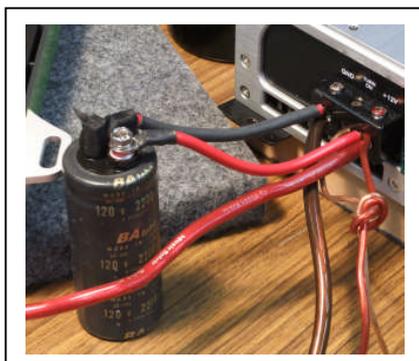
### ③ BA labo との併用

上記①、②結果より、それぞれの持ち味を生かすコラボは無いかな？その併用を探る。

次ページ へ



① 先ず BE-202 をアンプの電源入り口に並列接続。(簡易比較のため)



**試聴感想**——結果大成功。かなりいい。

音の密度感が格段に増し試聴空間全体が音楽情報で埋まる。何処の場所で聴いても音楽の存在感が感じられる。アバウトな表現が無くなり非常に繊細で細部まで正確な再生で音楽を聴く満足感に満たされる。

② 次に、BE-101 をアンプの電源入力に近くに接続。BE-202 との比較試聴



**試聴感想**——BE-101 は当然ながら？BE-202 効果に更なる音の凄みが増し密度感と静寂感で音楽が本当に深く豊かに鳴る。低域も輪郭がより鮮明になり電源として究極か。

③ 最後に、F600 と BE-202 の並列接続

**試聴感想**——結果としてこれは値打ち有り。ヤヤ騒がしい高域が完璧に押さえられ、静寂感が増し大変彫の深い音となる。ダイナミックレンジが更によくなる。ノイズ感が無くなるので、中・高域の音質の繊細感が増し音楽の表現力が素晴らしい。低域も輪郭が良くなる。複数のアンプシステム等でのコストパフォーマンスを考えれば「イチ押し」のコラボでしょう。

価格も ¥50,000 + ¥18,000 = ¥68,000/(税抜き)で音質効果はこれ以上の価値が十分に期待出来ます。



**結論**—— 予測どおりで、あまりにも当たり前の結果で面白くはありませんが、結果は事実です。

NBC F600とBA laboのコラボレーションは大変愛称の良い組み合わせという事になります。珍しく「互いの欠点を補い、長所が生きる」抜群の組み合わせアイテムと言えます。正に 1+1=2 効果です。